

松下幸之助記念志財団 研究助成

## 研究報告

(MS Word)

## 【氏名】

王楽

## 【所属】(助成決定時)

東京大学大学院学際情報学府

## 【研究題目】

満洲国農村部の宣撫宣伝活動のメディア史

## 【研究の目的】(400字程度)

本研究は、活字メディアに基づく従来の戦時期プロパガンダ研究の枠組みを乗り越え、帝国日本が視聴覚メディアを通して識字できない多民族へ国策宣伝を行った事例に焦点を当て、実証的に検証していく。本研究は、意図的な情報伝達を基本目的とする帝国日本のプロパガンダとメディアに伝達される情報を読み取ることができない非識字者の多文化多民族の矛盾、またそれを解決するため当時帝国日本のプロパガンダが現地社会に持っていた革新的な可能性を論じていく。このような研究対象の特徴に基づいて、宣撫宣伝活動における複数のメディアと活動の相乗効果について考えていく。そして、「満洲国における帝国日本のプロパガンダとは、むしろ複数のメディアと活動の相互配合の効果を利用することで、発展できるようになった」という論点を明らかにしていく。

## 【研究の内容・方法】(800字程度)

## ・研究の内容

第一に、満洲国における宣撫宣伝活動の関係者は欧米圏のプロパガンダ理論をいかに認識したかを考察する。それに基づいて、「宣伝」の機能を備える講演、「娯楽」と「宣伝」の境界を跨ぐ視覚メディアとメディア受容を誘導する施療施物は、宣撫宣伝活動全体でいかに位置づけられたかを明らかにする。

第二に、草創期の宣撫宣伝活動である満鉄社員向けの慰安列車と厚生船、関東軍の宣撫班について考察する。うえ、各地方政府の宣撫宣伝活動の企画を指導する小委員会の成立の経緯を論じる。一方、現地の地主や「弘報要員」と呼ばれた地方有力者が主要な実施者として活躍したことを考察する。さらに、映写機、蓄音機や宣伝自動車などからなった技術的な基盤を明らかにする。うえ、「物心両面」と呼ばれた工作方法を分析する。

第三に、映画のテキストに影響され変容していった活動と映画のテキストを分析する。まず、講演と映画上映の実施の基盤が統一化されていくプロセスを分析する。さらに、施薬施療と映画上映という組み合わせの実施方法について考察する場合、衛生映画と診療活動の相互影響を明らかにする。

第四に、宣撫宣伝活動の具体例として南満における漢族の「娘々廟会」と北満における蒙古族のラマ教廟会を解明する。南満における「娘々廟会」は満鉄の観光事業の宣伝としての「宣撫工作」の一環であり、農村部の漢族農民向けに行われた道教の祭典である。従来の宣撫宣伝活動の方法が使用された一方、数多くのメディアの内容が日中文化人に創作されるものであったことを検証する。さらに、北満における蒙古族のラマ教廟会は関東軍の軍事目的による宣撫宣伝活動として、民族別の「宣撫工作」方法に関する検討がなされた経緯を明らかにする。

## ・研究の方法

本研究は満洲国農村部の宣撫宣伝活動を対象とする際、現在まで資料調査で収集してきた資料に基づいて分析する。本論に使用される資料は、これまで日中米三カ国 12 都市で調査を行い、収集してきた 160 種以上の一次歴史資料の資料体と資料集である。本研究は上記の活字資料と映像資料に基づいて歴史的なアーカイブ分析を行う。

【結論・考察】（４００字程度）

各種の矛盾と相反する要素の相互作用によって、宣撫工作は帝国日本が満洲における勢力を拡張しようとする一つの方法としておこなわれた。それは、ファシズムを土台に、現地の伝統文化と社会階層をそのまま維持したうえ、資本主義と工業化の発展と結びつけつつ、欧米よりの知識と技術の輸入、日本の文化、啓蒙思想の伝播及び植民地主義と帝国主義の国策的な宣伝を行うものである。このような宣撫工作は、トランスナショナルな技術と知識を備えることで、多民族のターゲット向けに、多文化の内容を媒介する複数のメディアと活動を併用した。